

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



全日本選手権トラックレース 女子ケイリン<決勝>フィニッシュ



第83回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	2
日本新記録	4
2014日本パラサイクリング選手権・トラック大会	5
平成26年度 事業計画	6
第37回全国高等学校選抜自転車競技大会	10
第39回チャレンジサイクルロードレース大会	12
競技大会結果	15
日本代表選手団	19
日本スポーツ仲裁機構の仲裁判断について	21
JCF維持会員のお願い	21
「シクリスムエコー」定期購読のご案内	21
連盟の動き	21
今後の大会予定	22
第3回全日本トライアル選手権 in 佐久信州	23



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。 RINGRING! プロジェクト 競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで RINGRING! (競輪)

第 83 回 全日本自転車競技選手権大会 トラックレース

KEIRIN 00
この大会は競輪の補助金
を受けて開催されました



男子マディソン優勝の鹿屋体育大



男子ポイントレース1位の橋本(中央)、2位の窪木(左)



女子チームスプリント優勝の強化Cチーム



男子ケイリン決勝

男子チームスプリント優勝の鹿屋体育大



男子ケイリン決勝



第83回全日本自転車競技選手権大会トラックレースが、東日本大震災による復旧工事を昨年8月に終えた福島県西白河郡の泉崎国際サイクルスタジアムに於て、男子93名・女子17名のエントリーで行われた。

この会場は、「全日本アマチュア選手権」とは別に、1998年にプロアマ両選手が出場する「第1回全日本選手権」が開催された、記念すべき場所でもある。そして全日本選手権が、国際標準の室内250mトラックである伊豆ペロドロームから離れるのも、4年ぶりのことである。

4月19日、朝9時からの開会式の

後、9時30分から競技が開始された。桜満開ではあるが、風が強く肌寒い中、女子チームスプリント予選で、石井貴子・小林優香ペアが46秒927で、333mの日本新記録を樹立した。

一般的に鹿屋体育大学の活躍が目立ち、男子チームスプリント、男女の個人パーシュート、そしてマディソンで優勝を取めた。その中でも橋本英也は、パーシュートとマディソンの2冠に輝いた。

また、ケイリン決勝において、男女ともJPCAジャージで埋め尽くされたのが印象的であった。

4月20日の大会2日目は男子スプ

リント予選から始まり、渡邊一成が大会新記録の10秒083で予選1位を奪取した。ここでもまた1/4決勝へ進んだ8名は全員JPCA選手であり、渡邊は昨日のケイリンとスプリントで2冠に輝いた。

また、女子スプリント予選においても、上位2名の前田と石井貴子が大会新記録を樹立した。

そして、この日も男女のポイントレース、男子スクラッチで鹿屋体育大学が優勝し、橋本英也は「岐阜県」で出場したチームパーシュートも含め4冠を達成した。

1kmTT 優勝の脇本



3km 個人パーシュート優勝の塚越



男子チームパーシュート優勝の岐阜

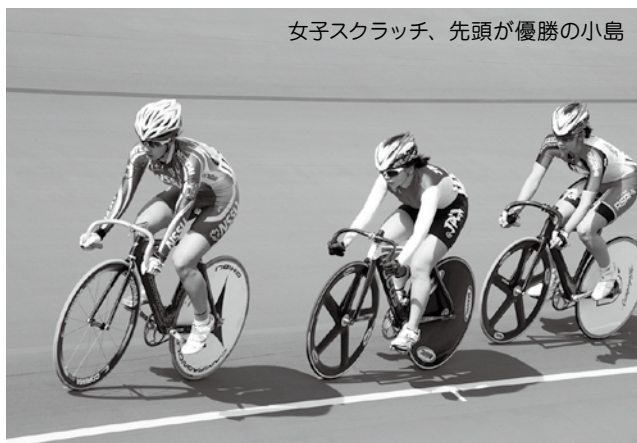
男子スプリント決勝、1位渡邊(左)と2位河端



女子スプリント決勝、1位前田(左)と2位石井



男子スクラッチ優勝の原田



女子スクラッチ、先頭が優勝の小島



女子ポイントレース、一番右が優勝の上野

【競技結果】

**第83回全日本自転車競技選手権大会
トラックレース(2014/4/19-20 福島・泉崎)**

男子エリート スプリント

- 1 渡邊 一成 強化 JPCA
- 2 河端 朋之 強化 JPCA
- 3 菅田 和宏 強化 JPCA

男子エリート 1km タイムトライアル

- 1 脇本 雄太 強化 JPCA 1:05.644
- 2 新田 祐大 強化 JPCA 1:06.171
- 3 早坂 秀悟 強化 JPCA 1:06.495

男子エリート ケイリン

- 1 渡邊 一成 強化 JPCA
- 2 中川 誠一郎 強化 JPCA
- 3 脇本 雄太 強化 JPCA

男子エリート 4km 個人ハイペース

- 1 橋本 英也 岐阜 鹿屋体大 4:46.604
- 2 窪木 一茂 和歌山 県教育庁 4:47.494
- 3 近谷 涼 富山 日本大 4:42.918

男子エリート スクラッチ (15km)

- 1 原田 裕成 岡山 鹿屋体大 19:27.54
- 2 一丸 尚伍 大分 EQA U23
- 3 浦田 真成 岐阜 朝日大

男子エリート ポイントレース (40km)

- 1 橋本 英也 岐阜 鹿屋体大 61p
- 2 窪木 一茂 和歌山 県教育庁 38p
- 3 倉林 巧和 群馬 日体大クラブ 18p

男子エリート マディソン (25km)

- 1 鹿屋体大 橋本・原田 19p
- 2 法政大 A 新村・寺崎 18p
- 3 日本大 久保田・近谷 7p

男子エリート チーム スプリント

- 1 鹿屋体 奥村・柴崎・堀 1:04.674
- 2 明治大 橋本・森本・板倉 1:06.127
- 3 日本大 坂井・高橋・坂本 1:06.306

男子エリート チームハイペース

- 1 岐阜 橋本・矢野・相馬・渡邊 4:24.013
- 2 和歌山 窪木・岡本・森口・山本 4:24.893
- 3 中央大 緑川・高士・黒瀬・原井 4:27.345

女子エリート 500m タイムトライアル

- 1 前田佳代乃 京都 京都車連 36.142
- 2 加瀬加奈子 強化 JPCA 37.012
- 3 小林 優香 強化 JPCA 37.229

女子エリート スプリント

- 1 前田佳代乃 京都 京都車連

- 2 石井 貴子 強化 JPCA
- 3 中川 諒子 強化 JPCA

女子エリート ケイリン

- 1 中川 諒子 強化 JPCA
- 2 石井 寛子 強化 JPCA
- 3 石井 貴子 強化 JPCA

女子エリート 3km 個人ハイペース

- 1 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体大 3:54.102
- 2 上野みなみ 青森 鹿屋体大 4:00.477
- 3 中村 妃智 千葉 日本体大 4:02.698

女子エリート スクラッチ (10km)

- 1 小島 蓉子 千葉 日体大クラブ 16:05.89
- 2 吉川 美穂 和歌山 サイクルベースあさひ
- 3 井上 玲美 JPCA JPCA

女子エリート ポイントレース (20km)

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体大 38p
- 2 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体大 33p
- 3 中村 妃智 千葉 日本体大 23p

女子エリート チーム スプリント

- 1 強化 C 石井貴・小林 47.078
- 2 強化 A 加瀬・中川 47.592
- 3 強化 B 石井寛・前田 47.787



日本新記録

Japan New Record

■ 女子チーム・スプリント ・333.3m×2

女子エリート 46" 927 強化C (石井 貴子・小林 優香) 2014/04/19 福島・泉崎国際サイクルスタジアム

2014 日本パラサイクリング選手権・トラック大会



MB 個人パーシュートで大会新記録!



藤田 征樹



石井 雅史



高橋 朝之

2014 日本パラサイクリング選手権・トラック大会が第 83 回全日本自転車競技選手権大会トラックレースと同時開催で泉崎国際サイクルスタジアムに於て、8 名のエントリーで行われた。

大会 2 日間で、男子 C3・C4・C5 の 1km タイムトライアルとパーシュート、男子 B と女子 B のフライングラップ、1km タイムトライアルおよびパーシュートが行われた。

なお、今までのパラサイクリング選手権においては、男子 B パーシュートの記録が無かったため、大城・宮越ペアの 5 分 02 秒 498 が大会新記録となった。

【競技結果】

2014 日本パラサイクリング選手権・トラック大会 (2014/4/19-20 福島・泉崎)

男子		
フライングラップ MB		
1	大城 竜之・宮越 孝治	10.830
1km タイムトライアル MC3		
1	藤田 征樹 茨城	1:16.846
1km タイムトライアル MC4		
1	石井 雅史 東京	1:13.797
1km タイムトライアル MC5		
1	高橋 朝之 岩手	1:36.151
1km タイムトライアル MB		
1	大城 竜之・宮越 孝治	1:08.211

個人パーシュート MC3		
1	藤田 征樹 茨城	3:55.215
個人パーシュート MC4		
1	石井 雅史 東京	5:14.194
個人パーシュート MC5		
1	高橋 朝之 岩手	6:48.344
個人パーシュート MB		
1	大城 竜之・宮越 孝治	5:02.498
女子		
フライングラップ FB		
1	鹿沼由理恵・沼部早紀子	12.578
1km タイムトライアル FB		
1	鹿沼由理恵・沼部早紀子	1:19.033
個人パーシュート FB		
1	鹿沼由理恵・沼部早紀子	4:09.841



鹿沼由理恵・沼部早紀子



大城 竜之・宮越 孝治

平成26年度 事業計画

公益財団法人 日本自転車競技連盟

我が国における自転車競技界を統括し、代表する団体として、定款に掲げる目的を達成するため、以下の諸事業を実施する。

I 事業計画概要

【総務委員会】

公益財団法人に移行し2年目となるが、移行認定を受けた平成25年度と同様に、公益認定法において公益目的事業として掲げられている“スポーツを通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養する”ことについて、初心に立ち返るとともに、公益財団法人としてより一層の透明性の高い業務運営を行っていくこととする。併せて、本連盟における社会的存在の責務を自覚し、競技大会を通じて自転車の安全マナーの啓発活動の実施や、アンチ・ドーピング委員会と連携し、アンチ・ドーピング活動の啓発にも積極的に協力していくこととし、指導現場における暴力行為やハラスメントについては自らを厳しく律していくこととする。

本連盟実施事業の多くが競輪補助金を原資としているが、平成23年度から自己負担金が総額の3分の1となり、連盟の決算も21年度から単年度赤字となっていたが、諸経費の支出について引き続き緊縮を図ると共に、広く活動資金の援助を求めため寄附金の規程整備や競技主管等の位置付けを明確にする等、収支の均衡を保つことを目指し自主財源の増額についてその方策を企画していく。

さらに、国際大会においてメダルを獲得しうる選手の育成を図るとともに、指導者・コミッサーを育成することにより国内大会のレベルアップを図り、もって自転車競技の普及振興を推進することとした。

【広報委員会】

本年度は、自転車競技の魅力を一様に広く周知するため、また登録人口の拡大を図るためにも各加盟団体および各専門委員会との連携のもと以下の諸事業を実施する。

1. ホームページでの情報発信

大会結果速報等のタイムリーな情報発信に努めると共に、全日本の大会開催要項、競技結果、日本代表選手の活躍など広く情報発信に努めるものとする。

更に、JCFが統轄する8種目については、全日本選手権を中心に内容を充実させる。また外部の動画サイトへのリンクも積極的に行う。

なお、オリンピック・パラリンピックの5種目については、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、自転車競技に関心を高めてもらうため、PRに活用できるような映像をJCF独自で保有しホームページで掲出すると共にDVDで貸し出し出来るよ

うにする。

2. 広報誌「シクリスムエコー」の発行

自転車競技の魅力を一般の方にアピールできるように、競技をわかり易く解説できる誌面の充実をはかる。

また、イベント会場での配布、諸団体への配布を通じて広く自転車競技の啓発普及につなげる。

3. 自転車競技の広報・報道対応

全日本選手権大会における観客、動員を意識したPRをロード、トラックを中心に実行委員会等と協力して実施する。

また、来場する報道機関に対しても、種目別の委員会および部会ならびに種目別団体とも連携し情報を共有し積極的な情報提供を行いメディア露出機会の増大に努める。

その他、メディア対応として各種目の国際大会への参加選手決定に伴う報道発表や競技結果について配信を行う。

【競技運営委員会】

1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催への取り組み

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催は、東京・日本におけるサイクル・スポーツの日常化に対して大なる寄与が期待される。自転車競技においても、東京での本格的ロードレースの開催、トラック競技場、BMX競技場、MTB会場の整備など、今後の普及発展につなげてゆく良い機会である。

ロンドンオリンピックのトラック、MTB会場は大会後に改修工事を経て、ロンドン市民がアクセスしやすく親しみ易いスポーツ・レクリエーション施設として2014年3月に再オープンする。こうした五輪遺産活用に優れた事例に学び、東京においてもサイクル・スポーツの拠点として活用可能な施設とすべく、立候補ファイルでは仮設施設として位置づけられているトラック、BMX競技会場の恒久施設としての整備を積極的に働きかけていく。

2. 全日本選手権大会の開催

2-1 オリンピック・パラリンピック実施5種目を含み、UCI管轄8部門での全日本選手権大会開催

国際自転車競技連合(UCI)の管轄する自転車競技8種目(ロード、トラック、シクロクロス、MTB、BMX、インドア、トライアル、パラサイクリング)の全種目において全日本選手権大会を開催し、我が国における自転車競技の普及・振興を図る。これら全日本選手権大会は日本国内における最高位の大会として相応しい、国際規則に準拠した高度で円滑な大会運営と、高いコストパフォーマンスのバランスを追求しつつ、原則として国

際大会への派遣代表選手選考の機会としての設定し、参加者のモチベーションを高く保つこととする。

オリンピック・パラリンピックの開催種目であるロード、トラック、MTB、BMX、パラサイクリングについては、2020年の大会開催へ向けた準備を意識しつつ取り組んで行く。

2-2 参加申込み資格の明確化と多様化

全日本選手権大会への参加申込み資格としては、すでに国際的に活躍してUCIランキングポイントを保持している者や前年度全日本選手権大会で一定の成績を収めている経験豊富な競技者を含めることと併せて、日本国内各地で行われる本連盟・加盟団体主催事業大会、ならびに他の主催者が主催者となり本連盟が主管もしくは公認する大会から広く上位者を選定する。これにより、地域的・階層的に幅広く門戸が開かれたハイレベルな選手層の参加に配慮するとともに、地域における大会開催意欲の喚起を図るものとする。

2-3 開催地公募制度の活用

大会の開催にあたっては開催地の協力が不可欠なことから、開催地公募制度を種目毎の特性に応じて活用し、人的・施設の・資金的側面等において手厚い協力が得られる地方との連携を図りつつ、活力ある大会運営を図る。

また、各地方における大規模大会の実施が、当該地域における継続的な大会開催のきっかけとなるよう、大会運営ノウハウの蓄積と伝授に留意する。

2-4 大会開催資金の獲得

大会開催資金の獲得にむけて、協賛企業の募集・マスメディアに対する働きかけ、開催地行政との調整、運営コストの見直しを多面的に進めることとする。

2-5 アンチ・ドーピング活動の徹底

ドーピング委員会と連携し、全日本選手権ならびにそれに準ずる全国大会でのアンチ・ドーピング活動を行う。

3. 国民体育大会の女子種目導入への取り組み

男女種目・参加者数の同数化が図られてきている世界的な情勢に対応すべく、近い将来の国体における女子種目導入に向けて積極的に検討を進める。併せて、地域大会を通じた参加資格制度の整備・タイム種目の参加資格の設定などによる予選の簡素化・時程短縮を図るなど、簡素かつハイレベルな大会への進展を模索する。本年度は国民体育大会での女子エキジビション種目の拡充を図り、正式種目採用への進展を図ることとする。

4. 日本国内における国際大会の開催

ロード・レースについては、引き続きUCIカレンダー登録大会を日本国内で積極的に開

催し、サイクルスポーツの日本における活性化を図るとともに、日本人選手の国際的な活躍の基礎を確保することにつとめる。

トラック・レースについては、2014年から世界選手権参加国に対して自国内での国際大会開催が義務づけられることに対応し、2014年1月に静岡県修善寺にて室内競技場を使用した国際大会としては初となる“ジャバントラックカップ”が成功裏に開催されたところであるが、平成26年度においては同様の大会を7月に開催する。またアジア諸国が年間数次にわたる国際大会を実施する機運にあることに対応し、さらなる国際カレンダー登録大会の実施・公認を積極的に模索する。

シクロクロス、マウンテンバイク、BMX、インドア、トライアルについて、UCIカレンダー登録レースの開催を引き続き積極的に推進する。パラサイクリングについては、パラリンピック種目でありながら、日本国内での国際大会開催経験がないため、近い将来の国際大会開催へむけた準備を行う。

5. 日本国内における国内カレンダー大会の開催・登録

自転車競技の普及・発展には登録者数の増大が必須であり、登録者数の増大には、登録者が参加可能な大会数の増大が必須である。本連盟の主催大会実施数にはおのずと限界があり、本連盟登録者を対象とした大会数の大幅な増大には、各地域における主催者との連携し、本連盟が競技面に適切に関与し、状況に応じて大会の主管・後援等を行うことによって多数の大会を実現していく必要がある。後援等に関する基準を再整備するとともに、積極的に運用していくこととする。

6. 審判・スタッフ等の研修・資格制度の充実

自転車競技の普及発展には、安全で円滑に運営される大会数の充実に必要であり、それを担う高度な技量と経験を有する審判の育成が必須であり、引き続き公認審判員の育成に力を注ぐ。公認審判員は、大会運営の質の確保にあたり必須の資源であり、本連盟の事業的発展には公認審判員の人的資源の発展が必須であって、公認3級審判員、2級審判員講習会の実施主体たる加盟団体の継続的協力を引き続き強く要請する。

また、将来的に国際コミッセルとして執務可能な人材の育成にも長期的視点で取り組み、1級審判員講習会の講義内容・試験の質的向上を図る。とりわけ2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時に、開催国が選出・提供すべきナショナル・コミッセルの数と質を確保するため、本年度は対象5種目の2級審判員数の増大に努力する。

講習会カリキュラムについては、平成24年度にそのガイドラインを定めたところであるが、講習会用ツールの開発・改善を進めて、講習会の質的向上をはかりつつ、開催時の負担軽減によって講習機会の増大も図る。

7. コーチ・スタッフ等の研修・資格制度の充実
大会運営のレベル向上には選手・審判のみならず参加するチーム・スタッフの基礎的知識・技能の向上も必須である。

昨年度 国民体育大会（東京開催）から、都道府県チームの監督は日本体育協会のコーチ、上級コーチ、もしくは指導員の有資格者であることが義務づけられたところであるが、引き続き日本体育協会コーチ資格講習会を本連盟主催により積極的に実施していく。指導員資格講習会についても、各都道府県連盟においてを実施いただいたところである。また、受講済みの人材が講師として活躍できる場の確保にも留意する。

大会に参加するものは遍くライセンス保持者であることが求められるものの、コーチ・監督以外のチームスタッフ向けライセンスは発給されてこなかったが、チーム・サポート・スタッフとして求められる最低限の競技規則に関する知識と、スタッフとしての心構えを備えた「チーム・アテンダント」ライセンス制度がすでに始まっている。諸外国においても、たとえばロードレースにおける車両運転者のライセンス保持確認の徹底など、選手以外のライセンス保持に関する規程と運用は厳格化の方向にあり、当連盟としてもコーチライセンス、チームアテンダントライセンス保持者の増大に向けて、講習会の活性化を図る。なお、将来的には大会参加に際して、メカニック等のスタッフを含めてすべてのチーム関係者は、いずれかのライセンス保持を必須とする方針である。

8. 競技者ライセンス制度の充実

我国における自転車競技の普及発展に必要な登録競技者数の増大と、登録者向け大会数の増大に向けて、すでに制度化されているビギナー向け大会における臨時登録制度の活用とともに、ビギナー・若年層が登録しやすい仕組みの拡充を図る。

昨年度から実施された通年登録者（プロフェッショナル競技者を除く）に対する賠償責任保険の自動付帯は、概ね肯定的な評価を受け、登録料の値上げを伴ったものの、微増ながら登録競技者の増加に寄与した。万が一の事故時対策が強化されたことの周知徹底をはかり、登録競技者数の増大に寄与することが期待される。もちろん、大会中・練習中を含めて事前の事故防止対策が重要である。今後引き続き、傷害保険のオプション付与やツアー関連のメリット付与等、ライセンス保持者へのサービスレベル向上の検討を進める。平成27年度ライセンスからの傷害保険オプション制度のスタートを目標として、インターネットから申込み者が直接入力可能な登録システムの準備を行う。

9. ランキング制度の運用再開

現在運用を休止しているロードレース・ランキングについて、対象大会の見直しを行った上で再開する。UCIランキングとの整合

性が高いものとし、選手選考等の有効なツールとして役立てる。

10. チーム登録制度の運用再開

現在運用を休止しているチーム登録制度について、すでに実態として運用されている全国団体を中心として運用を開始する。

11. 審判器材

競技運営に用いる審判器材について、記録の信頼性を確保するため、一定の基準（たとえばトラック電子計時装置の認定）を設けることを検討する。

12. パブリシティへの対応

競技大会運営にあたっては、安全・公平・公正なる運営を旨としつつも参加者・観客視点を尊重し、より多くの人々から共感を得て我国における自転車競技の普及発展に寄与することを目指すとともに、新たな競技者の登録へのきっかけづくり、メディアへの露出度向上を通じた各方面からの支援・協賛の増大に配慮する。

とりわけ、本連盟が主催する全日本選手権大会については、動画を含めた映像の配信とアーカイブとしての記録の拡充を図る。また、日本国内で行われる国際大会についても、メディア露出機会増大に努める。

13. 東日本大震災復興支援への取り組み

本連盟として復興支援に寄与可能なことは何があるか、という問いは永遠に続くが、被災地・周辺における大会の開催、は比較的容易な回答のひとつである。大会開催は、場合によっては開催地に負担をかける危惧もあるが、参加者・大会運営関係者・観客・メディア関係者など多くの人々が訪問することは、震災に対する認識を新たにす機会の提供になるのではない。

平成26年度は、全日本選手権トラック自転車競技大会を、震災後の復旧工事が完成した福島県泉崎国際サイクルスタジアムで実施する。

14. 小委員会、部会制度の活性化

種目別小委員会活動の活性化を図り、UCI管轄8部門すべてに亘る自転車競技の振興を推し進める。コミッセル部会活動の活性化により、大会競技運営の質的向上と、コミッセルの将来的な人材育成を図る。必要に応じて、小委員会構成の再構成を行う。

【選手強化委員会】

オリンピック競技大会をはじめとする国際大会におけるトップアスリートの活躍は、国民に夢や感動を与え、明るく活力ある社会の形成に寄与することから、本年度においては世界で通用する競技者を計画的に育成・強化し、2016年リオデジャネイロオリンピック、2020年東京オリンピックに向け継続的なメダル獲得を目的として事業を実施する。

特に、本年度は以下の項目を重点施策として実施する。

(1) ジュニア世代からの一貫した強化プログラム及び指導者養成および認定事業を構

築する。

(2) 日本人の資質に適した力の利用効率を重視した強化プログラムを導入するため、医科学委員長を中心としたサポート班を編成する。

(3) 現在成長が著しく、将来的にメダル候補の輩出が期待できる女子選手を選定し、重点強化する。

(4) 2020年東京オリンピックに向け、より多くの才能を発掘するための発掘事業を整備する。

(5) ヨーロッパに活動拠点を構築し、ロードレース等の活動を円滑に行うための体制を整える。

トラック競技においては、本連盟の定めた2014年強化育成事業計画の目標に賛同する優秀な選手を育成・強化することを目的とし、2014年全日本トラック選手権終了後1ヶ月以内に選手を募集し、選手発掘に努める。

また、募集期間以降はJCF加盟団体(都道府県車連・高体連・学連・実車連・プロ協会等)から推薦された者をトレーニングキャンプにテスト生として受け入れ、選手発掘に努める。

さらに、UCI公認国際大会へ積極的に日本代表選手団を派遣し、ワールドカップ、世界選手権大会等全種目での参加枠獲得に努める。ロード競技については、ヨーロッパに活動拠点を構築し、より多くのレース経験を重ねることにより、国際競技力の向上を図る。

また、海外チーム所属強化指定選手並びに国内強化指定選手との連絡を密にして体調把握し、世界選手権大会でのメダル獲得に努める。

その他国際大会においては、U23の選手を中心としてナショナルチームを編成し、国際大会へ積極的に派遣し選手強化に努める。

MTBについては、海外チーム所属強化指定選手によるUCI公認国際大会での国際ポイント獲得および支援。国内強化指定選手における(ユース、ジュニア、U23)若年層からの強化に努める。

BMXについては、UCI公認国際大会派遣によりオリンピック、世界選手権の参加枠獲得。また、昨年度より開始したユース層の強化育成選手を中心に、日本サイクルスポーツセンターを合宿拠点として活用し、世界選手権大会等での上位入賞に努める。

ジュニア競技者の強化については、全国高等学校体育連盟と連携を密にし、国際大会への選手派遣並びに強化合宿を積極的に行い、強化、育成に努める。

女子競技者の強化については、本年度も国際大会への選手派遣並びに強化合宿を積極的に行い、強化、育成に努める。

また、女子競技者においては他種競技団体との連携を密にし、2020年東京オリンピックに向けた選手の発掘に努める。

【アンチ・ドーピング委員会】

昨今の海外におけるドーピング違反報道は、まるで自転車競技といえばドーピングというイメージを持つくらいスポーツ界のみならず、一般社会全体にマイナスイメージを与える影響が大きいと思われる。このことは本連盟にとっても非常に重要な意味を持つものであり、真摯に受け止めドーピング防止策を速やかに進めていかなければならない。

具体的には、ドーピング防止、抑止力の核をなす二本の柱、「大会検査」、「アンチ・ドーピング講習会、アウトリーチプログラム実施、啓発活動」を活動の軸にすえて事業の実施を行う。

1. 検査の実施と検査体制の充実

(1) 検査実施予定対象大会

全日本大会、国際大会において、平成26年度は検査対象30大会、390検体を予定。

(2) JADA派遣DCOとの協同作業

国内で開催される全日本選手権(ロード、トラック、シクロクロス、MTB、BMX、インドア、トライアル、パラサイクリング)大会において検査を実施する。

検査の実施に当たっては、検査の国内統括機関であるJADA(日本アンチ・ドーピング機構)の協力の下、JADA派遣DCO(ドーピング・コントロール・オフィサー)と本連盟アンチ・ドーピング委員会推薦のDCOで検査を担当する。JADA派遣DCOと協力し、協同作業することにより、検査の公平性、客観性を保つことに努める。

(3) シャペロンの増員、継続性

WADA規定、UCI規定両面からも大会検査におけるシャペロンの役割が重要になってきている。具体的には、対象選手をよりきめ細かく監視するためには人数の増員が不可欠であり、それらを実践させる為にも現在のシャペロン人数増員の必要性について、各大会主催者側へ協力を依頼する。さらにはそれらのシャペロンに多くの試合を経験させ、養成していくことも重要である。

2. 啓発活動の充実

啓発活動の充実を図るには、講習会の開催が必要であるがアンチ・ドーピング委員会単独で開催することは受講者数の確保が現実的には難しく審判講習会、他各加盟団体事業と広く協力し、同会場、同日程で開催するなどの工夫が必要である。また、開催される講習会へは積極的に講師の派遣を計りたい。さらに、JADAホームページに掲載のあるエラーニングプログラムを使って、アンチ・ドーピングを学べるように周知する。現在すでにJCFホームページによるUCI規則の改訂、禁止薬物、スポーツファーマシスト検索、TUE申請等に関する問い合わせ、広報を行っているが、これをさらに充実させ選手・監督からの要請に応えたい。具体的にはWADA、UCIの競技規則改定があった際、選手・監督がより理解しやすいように改正点を

を抽出するなどして掲載する。将来的には、大会参加者に対して、ホームページに掲載してある重要事項、エラーニングプログラム学習修了証をプリントアウトさせて受付を行う方法も有効と考えられ、実現化に向けたホームページの課題の整備、改善を図る。

次に、本連盟所属のRTPA[®]選手は現在10名が登録されている。居場所情報登録提出、問い合わせがあれば質問に応え、本連盟アンチ・ドーピング委員会の責任として事務局を通して行う。

最後に、昨年度も北海道大学薬学部を通して分析を行っている使用薬物リストの分析を本年も引き続き行い、分析結果をアンチ・ドーピング啓発活動に供したい。

※ RTPAとは、JADAまたは国際競技団体(IF)の検査対象者登録リストへ登録されたトップクラスのアスリートのこと。

RTPAになると、事前通告なしの競技会外検査をより効果的に受け自らがクリーンであることを証明するために、インターネット上のドーピング防止管理運営システム(ADAMS)を通じて四半期ごとに3ヵ月分の居場所情報を提出する必要がある。

居場所情報は、居住地・宿泊地・トレーニング場所や競技会などの情報を、例えば部屋番号まで詳細に提出しなければならない。さらに、必ず検査に対応できる時間と場所を指定する「60分の時間枠」を指定することも義務付けられている。60分枠で指定した時間と場所にいなかった場合(検査未了)、または居場所情報が期限までに提出されなかったり、アップデートされてない(居場所情報未提出)ことが18ヶ月間で合計3回になると、「ドーピング防止規則違反」となり、1~2年間の資格停止になる可能性がある。

【国際推進部会】

本連盟によるチーム派遣のみならず個々のチーム、競技者、審判員らによる多様な国外競技活動や、国内での国際大会開催、国際化を視野に入れたチーム等の体制の整備など、多年に亘り国際的活動は増加し続けている。

この状況下、わが国と世界、特にアジア圏の自転車競技の健全な継続的発展に資するために、国内、国外から評価される高いブランド力が求められる。

そのために国際的競技大会の質を高め、さらに国内大会に反映させるためにも、国際的な情報の収集、共有、発信とともに優れた制度の導入も含めた実践も重要である。

これらのことを踏まえて、国際推進部会は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘・養成・登用、資料・文書の2ヶ国語(日本語・英語)化、国内外の情報の収集、対外(国内外)的な情報の蓄積及び公開、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化及び国際化に必要な事項の実践のための施策を

推進する。

そして、これらの円滑な推進のため、関係者/関係団体/関係国との良好で緊密な協力関係を涵養すべく活動する。

実施事業については以下のとおりである。

II 実施事業

1. 国内競技大会関係事業

① 全日本自転車競技選手権大会

(ロード、個人ロードタイムトライアル、トラック、オムニウム、マスターズ・トラック、室内自転車競技、マウンテンバイク、シクロクロス、BMX、トライアル、パラサイクリング)

② その他国内大会

(全国都道府県対抗、JOC ジュニアオリンピックカップ、全国ジュニア・ロード、日本スポーツマスターズ、チャレンジサイクルロードレース、国民体育大会自転車競技会、全日本ステージ・レース in いわて)

2. 国内での国際競技大会

① ジャパントラックカップ

② 日韓対抗学生自転車競技大会

③ ツアー・オブ・ジャパン

④ ツール・ド・おきなわ

⑤ ツール・ド・北海道

⑥ TOUR de 熊野

⑦ シマノ鈴鹿国際ロードレース大会

⑧ ジャパンカップサイクルロードレース大会

⑨ BMX伊豆国際

⑩ アジア室内自転車競技選手権大会

⑪ サイクルサッカー・ワールドカップ別府大会

3. 国際競技大会関係主要事業

① 世界選手権自転車競技大会選手派遣

(トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX、室内自転車競技、シクロクロス、トライアル、Jrトラック、)

② ワールドカップ大会選手派遣

③ アジア自転車競技選手権大会選手派遣

(トラック、ロード、マウンテンバイク)

④ UCIトラックカレンダーレースへの派遣

⑤ 国際会議への派遣

4. 加盟団体関係主要事業

(1) 都道府県連盟関連事業

① 全国地域別道路競走大会 (8地域)

② 全国地域別トラックレース大会 (8地域)

③ 全国都道府県別自転車競技選手権大会 (47都道府県)

(2) 日本プロフェッショナルサイクリスト協会関連事業

① 全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会

② プロサイクリスト選手強化

③ プロサイクリスト国際競技大会

(3) 全国高等学校体育連盟自転車競技専門部関連事業

① 全国高等学校選抜自転車競技大会 (トラック、ロード)

② 全国高等学校自転車競技全国合宿

(ブロック・全国)

③ チョンジュ MBC 国際ロードレース派遣

④ 全国高等学校総合体育大会

(4) 日本学生自転車競技連盟関連事業

① 全日本学生選手権自転車競技大会 (トラック、ロード、チームロード)

② 全日本大学対抗選手権自転車競技大会 (5) 全日本実業団自転車競技連盟関連事業

① JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ

② JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ

③ 東西地域別実業団 (トラック、ロード)

④ JBCF 石川サイクルロードレース

5. アンチ・ドーピングの推進事業

全日本選手権大会等主要大会において、ドーピング検査を実施し、アンチ・ドーピングを積極的に推進する。

6. 強化事業

(1) 強化合宿

(2) 国内合宿基地等維持費

(3) コーチ・スタッフの整備等

(4) 競技用機材等整備

7. 普及事業

(1) 全国自転車競技指導担当者研修会・審判講習会

(2) 自転車競技の普及・広報

(3) 広報誌発行事業

(4) 未登録者推進に係るシステム改修

(5) 広報 (宣伝、現地報道対応)

(6) アンチ・ドーピング活動

収支予算書総括表

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

科目	一般会計	日本体育協会 補助事業特別会計	国際競技力 向上事業特別会計	リビッパ・ジャパン 事業特別会計	JKA・公益補助 事業特別会計	スポーツ振興基金 事業特別会計	内部取引消去	合計
I 事業活動収支の部								
1. 事業活動収入								
① 基本財産運用収入	950,000	0	0	0	0	0	0	950,000
② 特定資産運用収入	10,000	0	0	0	0	0	0	10,000
③ 会費収入	28,895,000	0	0	0	0	0	0	28,895,000
④ 事業収入	35,709,000	0	0	0	0	0	0	35,709,000
⑤ 補助金等収入	190,977,000	6,000,000	26,560,000	3,200,000	220,511,000	91,589,000	0	538,837,000
⑥ 負担金等収入	5,240,000	0	11,140,000	0	0	17,026,096	0	33,406,096
⑦ 寄付金収入	1,000,000	0	0	0	0	0	0	1,000,000
⑧ 雑収入	1,632,000	0	0	0	0	0	0	1,632,000
⑨ 他会計からの繰入金収入	2,000,000	0	5,000,000	0	53,970,000	1,660,010	△ 62,630,010	0
事業活動収入計	266,413,000	6,000,000	42,700,000	3,200,000	274,481,000	110,275,106	△ 62,630,010	640,439,096
2. 事業活動支出								
① 事業費支出	107,768,000	6,001,000	42,700,000	3,200,000	274,481,000	110,275,106	0	544,425,106
② 管理費支出	98,015,000	0	0	0	0	0	0	98,015,000
③ 他会計への繰入金支出	60,630,010	0	0	2,000,000	0	0	△ 62,630,010	0
事業活動支出計	266,413,010	6,001,000	42,700,000	5,200,000	274,481,000	110,275,106	△ 62,630,010	642,440,106
事業活動収支差額	△ 10	△ 1,000	0	△ 2,000,000	0	0	0	△ 2,001,010
II 投資活動収支の部								
1. 投資活動収入								
① 特定資産取崩収入	0	0	0	0	0	0	0	0
② 移転補償金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出								
① 特定資産取得支出	1,731,000	0	0	0	0	0	0	1,731,000
② 事務所移転費支出	0	0	0	0	0	0	0	0
投資活動支出計	1,731,000	0	0	0	0	0	0	1,731,000
投資活動収支差額	△ 1,731,000	0	0	0	0	0	0	△ 1,731,000
III 予備費支出								
① 予備費支出	0	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	△ 1,731,010	△ 1,000	0	△ 2,000,000	0	0	0	△ 3,732,010
前期繰越収支差額	50,465,967	8,021,355	3,560,238	30,641,345	0	0	0	92,688,905
次期繰越収支差額	48,734,957	8,020,355	3,560,238	28,641,345	0	0	0	88,956,895

第37回全国高等学校選抜自転車競技大会

男子総合優勝は日出暘谷・総合高校



男子ロードレース優勝の橋詰

女子ロードレース優勝の梶原



男子スクラッチ優勝の池西(先頭)



3km個人パーシュート優勝の阿部



1kmTT 優勝の栗本



男子ケイリン決勝



女子ケイリン決勝、先頭が優勝した鈴木

平成25年度全国高等学校選抜自転車競技大会が、福岡県および熊本県で、3月20～23日の日程で開催された。トラック・レースは北九州市の北九州メディアドーム、そしてロード・レースは熊本県山鹿市特設コースで行われた。室内競技場の特性を活かして、初日は開会式に引き続き夕方からレースをスタートした。女子2km個人パーシュート予選においては梶原悠未（筑波大坂戸）が、2分37秒553の大会新記録を樹立、翌日の決勝でも2分40秒台の好記録で優勝した。男子3km個人パーシュートでは、阿部将大（日出暘谷・日出総合）が沢田桂太郎（東北）をおさえて優勝した。

ポイントレースでは僅差の混戦となり、16点を獲得した武智気吹（松山中央）と、15点を獲得した下野義城（松山聖陵）の愛媛県勢が1、2フィニッシュを果たした。

女子スクラッチ決勝は6kmで行われ、1周目からアタックした梶原悠未（筑波大坂戸）が15周を独走で逃げ切り今大会2勝目をあげた。男子スクラッチ決勝は、池西拓海（栄北）がゴールスプリントを制して優勝。

500mタイムトライアルは静岡星陵高の鈴木奈央が、大会新記録で連覇した。1kmタイムトライアルは、今ひとつタイムが伸び悩む中、第6組に出場した佐藤文俊（日出暘谷・日出総合）が1分08秒927を記録したが、最終組で出走した栗本武典（敬愛学園）が1分08秒055で優勝した。

女子ケイリン決勝は鈴木奈央が、500mタイムトライアルに続いて優勝し、2年連続2種目制覇の偉業を成し遂げた。

男子ケイリンは1回戦から強さを発揮した釘尾真幸（南大隅）が優勝した。スプリントでは予選で11秒022を記録した太田竜馬（小松島西）が圧巻の走りで見事に勝ち上がり優勝した。

トラック・レースでは、大会新記録が女子で2種目更新され、着実にレベル

アップが進んでいるが、男子の記録は夏のインターハイにピークを合わせていることを割り引いても低調であったので、今後の奮起を期待したい。

また、今回の大会では、落車防止の対策の一環として競争種目のスタート前に、規則違反走行の実際を图示して指導をしたため、規則違反走行を起因とする落車が減少した。その一方ハンドル操作未熟による落車が多く見られ体力向上を目的とするトレーニング以外にも、集団走行時の技術向上を図る取り組みを進め、選手の技術向上を図ってほしい。

最終日のロードレースは、熊本県山鹿市特設コースで、男子は7周（80.5km）、女子3周（34.5km）で実施された。

昨年に続き、3周（34.5km）のオーブンレースが行われ、選抜ロードレースの開催を盛り上げた。10時に男子がスタートし、その1分後に女子がスタートした。

女子は、スタートからトラック2種目優勝の梶原悠未が飛び出し、そのまま逃げ切り、女子3冠を達成した。男子は最終周回の登りで、アタックした橋詰丈（昭和第一学園）が、メイン集団を20秒前後リードしたまま独走、学校総合成績を意識して若干牽制状態になった集団に差を詰められたが、14秒の差をつけて優勝した。

学校総合成績は、男子がロード・レースで2名入賞した日出暘谷・日出総合が35点を獲得して、優勝。女子は筑波大坂戸が1名参加ながら3種目を制覇し27点を獲得して優勝を飾った。今大会はトラック・レースもロード・レースも女子のレベルアップが感じられ、東京オリンピックに向けて今後の記録向上も期待できる。男子も選手のレベルが着実に向上している大会であったので、全国の指導者の努力により、来年度もさらにレベルの高い記録が生まれるように期待したい。

（高体連 競技運営部会長 高畑秀規）

【競技結果】

第37回全国高等学校選抜自転車競技大会
(2014/3/20-23 福岡・北九州、熊本・山鹿)

男子スプリント

- 1 大田 竜馬 徳島 小松島西
- 2 梶原 大地 福岡 祐誠
- 3 伊藤 稔真 三重 朝明

男子1kmタイムトライアル

- 1 栗本 武典 千葉 敬愛学園 1:08.055
- 2 佐藤 文俊 大分 日出暘谷 1:08.927
- 3 水谷 翔 鹿児島 南大隅 1:09.986

男子ケイリン

- 1 釘尾 真幸 鹿児島 南大隅
- 2 南 潤 和歌山 和歌北
- 3 徳田 匠 京都 北桑田

男子3km個人パーシュート

- 1 阿部 将大 大分 日出暘谷 3:39.130
- 2 沢田桂太郎 宮城 東北 3:43.233
- 3 安田 開 京都 北桑田 3:40.353

男子スクラッチ

- 1 池西 拓海 埼玉 栄北 10:08.50
- 2 兼本 将太 熊本 鎮西
- 3 孫崎 大樹 京都 北桑田

男子ポイントレース

- 1 武智 気吹 愛媛 松山中央 16p
- 2 下野 義城 愛媛 松山聖陵 15p
- 3 草場 啓吾 京都 北桑田 13p

男子ロードレース

- 1 橋詰 丈 東京 昭和第一 2:03:51.7
- 2 孫崎 大樹 京都 北桑田 2:04:03.1
- 3 高橋 優斗 大分 日出暘谷 2:04:03.4

女子500mタイムトライアル

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵 37.696
- 2 大久保花梨 福岡 祐誠 38.506
- 3 平井 杏奈 福岡 祐誠 38.533

女子2km個人パーシュート

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 2:40.834
- 2 八木 梓 京都 北桑田 2:48.422
- 3 中井 彩子 宮崎 日向 2:44.990

女子ケイリン

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵
- 2 大久保花梨 福岡 祐誠
- 3 高橋 智香 愛知 桜丘

女子スクラッチ

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 8:08.46
- 2 大谷 杏奈 愛知 桜丘
- 3 中井 彩子 宮崎 日向

女子ロードレース

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 1:02:06.8
- 2 鈴木 奈央 静岡 星陵 1:03:58.9
- 3 大谷 杏奈 愛知 桜丘 1:03:59.3

男子総合成績

- 1 日出暘谷・総合高校 35p
- 2 北桑田高校 31p
- 3 昭和第一学園高校 20p

女子総合成績

- 1 筑波大附属坂戸高校 27p
- 2 星陵高校 25p
- 3 祐誠高校 23p

第 39 回チャレンジサイクルロードレース大会

荒天で男子エリートがキャンセルに



A-Jクラス



B-C2クラス

4月6日、第39回チャレンジサイクルロードレース大会が、静岡の日本サイクルスポーツセンター5kmサーキットにおいて開催された。

昨年度の第38回大会は悪天候でキャンセルされたため、2年ぶりの開催となった。今回も天候が心配されたが、とりあえず午前中のレースは無事に進行していった。

しかし14時からの最終レースであるA-E、A-U、A-Fが始まった頃から雲行きが怪しくなってきた。何とかA-Fは無事終了する事ができたが、その後風雨が激しくなり、A-Eの周回数を決める事が決定された。しかしA-Uのフィニッシュ時には、テントが飛ばされる程の強風と雨霰となり、危険回避のため、A-Eの選手も一時秀峰亭に避難することとなったが、最終的には残念ながら、A-E部門のみレースキャンセルとなった。

A-Eクラス



A-Yクラス



A-Mクラス



新しい翼で、世界の空へ。

member of 



JAPAN AIRLINES



A-F 優勝の梶原(左)と2位の坂口



A-U 優勝の近谷



秀峰亭へ一時避難する A-E クラス

【競技結果】

第 39 回チャレンジサイクルロードレース大会
(2014/4/6 静岡・日本サイクルスポーツセンター)

A-Y (29km)

- 1 渡辺 歩 福島 学法石川 51:05.36
- 2 蠣崎 優仁 静岡 EQADS 51:09.11
- 3 渡辺 慶太 埼玉 浦和工高 51:14.36
- 4 中川 涼 埼玉 51:46.87
- 5 江越海玖也 神奈川 VAPOR 53:22.11
- 6 橋田 和樹 埼玉 立教新座 53:22.63

A-J (39km)

- 1 橋詰 丈 東京 昭和第一 1:05:34.22
- 2 石上 優大 神奈川 横浜高 1:05:38.41
- 3 渡辺 将太 福島 白河実業 1:05:40.20
- 4 草場 啓吾 京都 北桑田校 1:05:40.70
- 5 小野康太郎 東京 ミタイト 1:05:40.85
- 6 中本 優司 奈良 奈良北高 1:05:40.85

A-M (39km)

- 1 山下 博人 静岡 You Can 1:08:28.83
- 2 齋藤 敦 北海道 1:08:31.01
- 3 鶴田 和弘 神奈川 大永山 1:08:41.53
- 4 早川 祐司 栃木 Ventos 1:08:44.91
- 5 奥森 正浩 東京 竹芝サイクル 1:08:53.14
- 6 江見 広 東京 オースト 1:08:54.98

B-8 (14km)

- 1 酒井 美有 SQ-TAKU 29:47.18
- 2 市東 章代 UGO 32:08.88
- 3 山本真紀恵 コ・ミヤワ 33:17.31
- 4 太郎田水桜 33:31.25
- 5 水野 佳代 K&K 34:05.42
- 6 松橋 香 輪千レーシング 36:32.41

B-3 (24km)

- 1 平田 稔喜 S モンテッソ 43:55.11
- 2 國本 英典 TEAM 光 44:12.91
- 3 蔡 思遠 44:20.67
- 4 近藤 弘樹 44:27.73
- 5 福代 直希 TEAM 光 44:40.02
- 6 津村 翔平 パインヒルズ 44:46.35

B-4 (24km)

- 1 小川 修 津レーシング 44:30.13
- 2 岩倉航太郎 ニコタ CC 44:40.27
- 3 落合 明 45:07.28
- 4 藤田 拓也 ほんだら連合 45:44.68

- 5 水野 広大 K&K 45:51.15
- 6 秋葉 裕司 光 46:31.54

B-2 (24km)

- 1 梶田 明仁 ARAI 43:57.67
- 2 田中 弦 ホンジャンス C 49:00.76
- 3 平出 翔大 51:12.00
- 4 大橋 卓慧 津久井浜高 53:12.72

B-5 (14km)

- 1 山本 裕昭 SCRT 25:21.79
- 2 奈良 正一 天狗党 25:27.09
- 3 長峯 雄一 なるしま F 25:34.37
- 4 江越 和也 25:37.40
- 5 坂本 浩一 スプラッシュ 25:41.74
- 6 近江 邦夫 Dreamer 25:48.84

B-6 (14km)

- 1 小野 忠 パインヒルズ 25:39.12
- 2 北条 伸行 ルガモンテロ 26:05.95
- 3 野崎 鉄雄 パインヒルズ 26:26.54
- 4 増田 謙一 ブルーグラス 26:32.28
- 5 杉山 和重 なるしま F 26:38.70
- 6 元吉 剰人 Splash 26:40.91

B-7 (14km)

- 1 細山 正一 UGO 27:58.40
- 2 澤田 龍之 28:29.37
- 3 北川 悦孝 静岡サイクル R 28:35.89
- 4 山本 正和 28:47.83
- 5 大塚 和平 パインヒルズ 29:10.86
- 6 近藤新一郎 なるしま F 29:17.17

B-1 (14km)

- 1 江見 俊輔 オースト 25:51.84
- 2 山内 深太 T-DADDY 25:52.32
- 3 中谷 亮太 札幌平岡中央 25:55.83
- 4 清水 大樹 WS ジャパン 27:02.32
- 5 京岡 優馬 港北ロード 27:34.51
- 6 柳澤 創 スパライオンズ 28:20.60

B-C1 (2km)

- 1 若林 蔵月 パイクタン
- 2 伊藤 桃奈 TELAIO
- 3 小野寺 海 ONODERA
- 4 高木 友里 ホンジャンス K

B-C2 (3km)

- 1 篠島 瑠樹 カイ 3:25.28
- 2 石上 琴乃
- 3 橋本 のこ
- 4 高梨 颯樹 チームト
- 5 山崎 雄太 ホンジャンス K
- 6 新沼 杏菜 パインヒルズ

B-C3 (4km)

- 1 渡辺 耶斗 FITTE 8:36.62
- 2 細谷 響貴 チルヒテ 8:52.54
- 3 佐藤真那也 三崎レーシング 9:00.31
- 4 古谷田 耀 9:08.17
- 5 中谷 研斗 札幌平岡中央小 9:13.25
- 6 稲川 慎志 C-DADDY 9:27.52

A-F (19km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 36:57.08
- 2 坂口 聖香 兵庫 日本体育大 37:07.03
- 3 齋藤 望 宮城 日本体育大 37:22.03
- 4 小島 蓉子 千葉 日本体育大 37:27.01
- 5 大谷 杏奈 愛知 桜丘高 37:32.57
- 6 谷 伊央里 群馬 日本体育大 37:40.90

A-U (39km)

- 1 近谷 涼 富山 日本大 1:03:21.32
- 2 岡本 隼 和歌山 日本大 1:03:31.08
- 3 秋田 拓磨 福井 朝日大 1:03:32.85
- 4 吉田 悠人 栃木 日本大 1:03:33.67
- 5 中井 路雅 滋賀 京都産大 1:03:33.69
- 6 鈴木 龍 東京 SEKIYA 1:03:35.36

A-E

※スタートしたが荒天のためキャンセル

Stage1 (114km)

1	PARET PEINTRE Aurelien FRA	2:41:59
2	BOZIC JohnSVN	
3	KULIKOVSKII Alexandr RUS	
52	石上 優大 横浜高校	
55	草場 啓吾 北桑田高校	
66	孫崎 大樹 北桑田高校	
105	小山 貴大 前橋育英高校	
106	冨尾 大地 南大隅高校	
114	水谷 翔 南大隅高校	

Stage2 (98km)

1	KAMNA Lennard GER	2:34:17
2	PARET PEINTRE Aurelien FRA	+0:03
3	IDJOUADIENNE Pierre FRA	+0:06
17	石上 優大 横浜高校	+0:16
53	孫崎 大樹 北桑田高校	+1:03
81	冨尾 大地 南大隅高校	+13:46
83	水谷 翔 南大隅高校	+13:56
88	小山 貴大 前橋育英高校	+14:20
107	草場 啓吾 北桑田高校	+19:44

Stage3 (112km)

1	WOUTERS Enzo BEL	2:47:02
2	ROVSTOVTSEV Sergei RUS	
3	ROMANO Francesco ITA	
16	草場 啓吾 北桑田高校	
74	孫崎 大樹 北桑田高校	
77	石上 優大 横浜高校	+1:00
98	小山 貴大 前橋育英高校	+4:18
99	冨尾 大地 南大隅高校	
104	水谷 翔 南大隅高校	

第16回全日本学生選手権大会 (2014/4/26 滋賀・東近江ふれあい公園)

男子 (40km)

1	橋本 英也 鹿屋体育大学	33p
2	秋田 拓磨 朝日大学	28p
3	入佐 直希 鹿屋体育大学	25p
4	小林 和希 明治大学	9p
5	仲沢 優祐 朝日大学	6p
6	徳田 優 鹿屋体育大学	5p

女子 (22.8km)

1	中村 妃智 日本体育大学	39:37
2	齋藤 望 日本体育大学	39:41
3	江藤里佳子 鹿屋体育大学	39:43

第34回西日本学生選手権大会 (2014/5/3-4 岸和田競輪場)

男子スプリント

1	松本 貴治 朝日大学
2	小山 兼司 朝日大学
3	小原 佑太 朝日大学

男子1kmタイムトライアル

1	相馬 義宗 朝日大学	1:06.182
2	坂井 篤 同志社大学	1:08.930
3	金田 聡士 朝日大学	1:09.386

男子ケリッ

1	沼田 明久 朝日大学
2	高橋 飛鳥 中京大学
3	佐々木将哉 朝日大学

男子4km個人ハーフ

1	渡邊翔太郎 朝日大学	4:49.953
2	今西 亮太 朝日大学	5:04.178
3	浦田 真成 朝日大学	5:06.156

男子スクラッチ

1	角 優介 朝日大学
2	市原 和希 朝日大学
3	野村 侑希 環太平洋大学

男子ポイントレース

1	安田 京介 京都産業大学	27p
2	宮内 渉 環太平洋大学	20p
3	矢野 智哉 朝日大学	15p

男子チームスプリント

1	朝日大 上遠野・中野・松本	1:22.297
2	同志社 坂井・廣瀬・川元	1:23.881
3	京産大 戸祭・増田・佐藤	1:24.759

男子4kmチームハーフ

1	朝日大 市原・金田・相馬・渡邊	4:29.985
2	京産大 谷口・間瀬・安田・樋口	4:44.666
3	立命大 河賀・廣瀬・長南・住谷	4:44.125

女子500mタイムトライアル

1	宮田 菜摘 朝日大学	41.410
---	------------	--------

女子3km個人ハーフ

1	宮田 菜摘 朝日大学	4:11.808
---	------------	----------

Jシニア J1 XCO びわ湖高島 STAGE (2014/5/3-4 滋賀・高島 朽木ヶ崎)

男子エリート (21km)

1	斉藤 亮 長野 プリンス	1:30:05.05
2	平野 星矢 長野 プリンス	1:31:01.36
3	千田 尚孝 愛知 自転車村	1:32:57.22

女子エリート (12.6km)

1	末政 実緒 兵庫 UnionTools	1:19:14.63
2	小林可奈子 長野 Azumino	1:20:59.11
3	中島 峻歩 山梨 SY-Nak	1:24:32.96

Jシニア J1 DHI びわ湖高島 STAGE (2014/5/5-6 滋賀・高島 箱館山ヶ崎)

男子エリート

1	清水 一輝 愛知 MADISON	3:19.454
2	九島 勇気 神奈川 玄武	3:24.229
3	浅野 善亮 愛知 GIANT	3:25.775

女子エリート

1	末政 実緒 兵庫 Dirtfreak	3:54.326
2	中川 綾子 兵庫 TeamYRS	4:02.067
3	九島あかね 神奈川 玄武	4:15.845

第54回東日本学生選手権大会 (2014/5/10-11 福島・泉崎国際サイクルスタジアム)

男子スプリント

1	坂本 佳哉 青森 日本大学
2	後藤 悠 岩手 早稲田大学
3	橋本 瑠偉 佐賀 明治大学

男子1kmタイムトライアル

1	久保田元気 福島 日本大学	1:07.853
2	深瀬 泰我 静岡 法政大学	1:07.861
3	山内 厚二 埼玉 日本体育大	1:08.024

男子ケリッ

1	宮本 隼輔 山口 中央大学
2	佐伯 亮輔 鳥取 中央大学
3	藤根 俊貴 岩手 順天堂大学

男子4km個人ハーフ

1	近谷 涼 富山 日本大学	追抜勝
2	森口 寛己 和歌山 日本大学	
3	高士 拓也 三重 中央大学	4:53.477

男子スクラッチ

1	山本 修平 東京 日本大学
2	青野 将大 香川 法政大学
3	早川 侑哉 埼玉 中央大学

男子ポイントレース

1	岡本 隼 和歌山 日本大学	18p
2	佐々木勇輔 埼玉 早稲田大学	15p
3	塩田 航平 埼玉 早稲田大学	15p

男子チームスプリント

1	中央大学 栗本・佐伯・宮本	1:04.887
2	明治大学 橋本・森本・板倉	1:08.956
3	日本大学 安里・高橋・坂本	1:06.458

男子4kmチームハーフ

1	中央大 黒瀬・緑川・高士・原井	4:20.725
2	日本大 久保田・近谷・森口・岡本	4:22.835
3	法政大 新村・寺崎・青野・鈴木	4:29.217

女子500mタイムトライアル

1	齋藤 望 宮城 日本体育大	38.370
2	丸田 京 東京 法政大学	38.858
3	中村 妃智 千葉 日本体育大	39.430

女子3km個人ハーフ

1	中村 妃智 千葉 日本体育大	4:03.396
2	齋藤 望 宮城 日本体育大	4:15.064
3	合田祐美子 岡山 早稲田大学	4:16.344

女子チームスプリント

1	順天堂大学 樋口・神庭	52.140
2	日本体育大学 中村・齋藤	50.503
3	早稲田大学 合田・中嶋	57.507

平成25年度全国地域大会

第2回ケリッ・ツゥ・ロード大会 (2013/6/16 北海道・遠軽町丸瀬布大平)

男子エリート

1	三輪 俊史 札幌車連	3:47:46.38
2	Brian Barkhouse NSR	3:51:08.15
3	藤原 真 DOKYU A	3:59:28.16
4	永田 友貴 フォントムハーフ	3:59:34.82
5	松田 究 ライトファクトリー	4:02:11.87
6	熊坂 和也 札幌車連	4:02:12.63

第65回関東自転車競技選手権大会 (2013/7/7 神奈川・平塚競輪場)

男子スプリント

1	坂井 洋 栃木 作新学院
2	渡辺 直哉 埼玉 栄北高
3	吉田 拓矢 茨城 取手第一高

男子1kmタイムトライアル

1	伊藤 邦和 東京 中央大	1:07.927
2	小林 亮太 栃木 作新学院	1:08.748
3	新村 穰 神奈川 法政大	1:08.801

男子ケリッ

1	坂井 洋 栃木 作新学院
2	小松 誠悟 栃木 作新学院
3	高橋 築 東京 日本大

男子4km速度競走

1	山本 修平 東京 昭和第一学	4:44.01
2	早乙女貴英 栃木 作新学院	
3	穂苅 大地 新潟	

男子ポイントレース (24km)

1	塩田 航平 埼玉 栄北高	25p
2	福田大二郎 栃木 法政大	21p
3	広瀬 樹 神奈川 中央大	18p

男子チームスプリント

- 1 栃木 小林・小松・坂井 1:17.342
 2 東京 高橋・伊藤・吉田 1:20.732
 3 山梨 深沢・飯塚・小菅 1:21.664

男子4kmチームハーフシュート

- 1 東京 谷口・伊藤・山本・古田 4:34.931
 2 栃木 福田・吉田・早乙女・佐々木 4:37.746
 3 神奈川 新村・広瀬・樋口・畑 4:41.480

女子500mタイムトライアル

- 1 福田 礼佳 栃木 作新学院 38.414
 2 丸田 京 東京 法政大 38.613
 3 細田 愛未 埼玉 川越工高 39.481

女子2km個人ハーフシュート

- 1 柳本 愛奈 山梨 日本体大 2:43.740
 2 古山 稀絵 東京 昭和第一 2:43.941
 3 梶原 悠未 埼玉 筑波坂戸 2:44.934

女子スクラッチ(10km)

- 1 細田 愛未 埼玉 川越工高
 2 古山 稀絵 東京 昭和第一学園高
 3 柳本 愛奈 山梨 日本体育大

総合成績

- 1 栃木 49p 2 東京 33p 3 埼玉 17p

高石杯第48回関東地域自転車道路競走大会
(2014/2/2 埼玉県・大宮けんぼウカド)

一般男子

- 1 中村龍太郎 埼玉 ｲｰﾒ 48:57.705
 2 小畑 郁 東京 なるしま 48:57.907
 3 水野 恭兵 山梨 CORSA 48:58.918
 4 北野 普識 東京 ｲｰﾒ 48:58.973
 5 高岡 亮寛 東京 ｲｰﾒ 48:59.144
 6 岡 泰誠 茨城 筑波大学 48:59.149

高校生男子

- 1 中村 圭佑 東京 昭和第一 35:46.988
 2 齊藤 瞭汰 群馬 前橋工高 35:47.883
 3 古田 潤 東京 昭和第一 35:49.894
 4 小松 正和 東京 昭和第一 35:50.286
 5 中村 魁斗 栃木 作新学院 35:50.782
 6 小山 貴大 群馬 前橋育英 35:51.126

オプショナル女子

- 1 谷 伊央里 群馬 前橋育英 33:26.235
 2 細谷 夢菜 埼玉 八王子中 33:26.683
 3 坂本 咲 東京 美原高校 34:15.174
 4 西形 舞 群馬 勢多農高 34:15.546
 5 斉藤 千夏 千葉 ReadyGoJ 34:15.921
 6 赤塚友梨恵 埼玉 ReadyGoJ 34:16.237

中学生男子

- 1 藤井 雅樹 埼玉 南中学校 12:36.938
 2 中川 涼 埼玉 12:38.875
 3 多田れおん 茨城 Growing 12:41.918

平成25年度中部8県対抗自転車競技大会
第44回中部8県対抗自転車競技選手権大会
第46回中部8県自転車道路競走大会
(2013/9/7-8 R:愛知・長久手
T:愛知・一宮競輪場)

少年男子スプリント

- 1 望月 一成 静岡
 2 加藤 大輝 愛知
 3 長谷部龍一 岐阜

成年男子スプリント

- 1 市原 和希 岐阜

- 2 松本 諒太 三重
 3 林 竜広 愛知

少年男子1kmタイムトライアル

- 1 中川 勝貴 福井 1:11.439
 2 大石 剣士 静岡 1:11.606
 3 山本 和輝 三重 1:11.747

成年男子1kmタイムトライアル

- 1 相馬 義宗 岐阜 1:06.464
 2 廣田 敦士 三重 1:08.102
 3 碓 優太 福井 1:08.615

少年男子ケリツ

- 1 中村 友哉 三重
 2 加藤 天海 福井
 3 蔡 思遠 岐阜

成年男子ケリツ

- 1 堀田 海人 三重
 2 佐野 伸弥 岐阜
 3 黒瀬 壮馬 静岡

少年男子4km速度競走

- 1 浦田 真成 岐阜 5:14.65
 2 伊藤 真希 福井
 3 伊藤 稔真 三重

成年男子4km速度競走

- 1 高土 拓也 三重 4:50.05
 2 寺崎 浩平 福井
 3 渡邊翔太郎 岐阜

男子ホイントレース(24km)

- 1 橋本 英也 岐阜 34P
 2 榊原 健一 愛知 18P
 3 廣瀬 元輝 福井 14P

男子チームスプリント

- 1 三重 廣田・堀田・松本・下岡 1:22.091
 2 岐阜 佐野・市原・浦田・蔡・長谷部・清水 1:23.235
 3 福井 中川・加藤天・中村・伊藤 1:24.481

男子4kmチームハーフシュート

- 1 岐阜 矢野・相馬・橋本・渡邊・鎌足・増島 4:35.037
 2 静岡 山本・深瀬・鈴木・大石・望月 4:38.448
 3 福井 碓・寺崎・秋田・廣瀬 4:41.898

女子500mタイムトライアル

- 1 鈴木 奈央 静岡 39.381
 2 高橋 智香 愛知 41.389
 3 中嶋 綺砂 三重 42.195

女子3km個人ハーフシュート

- 1 中嶋 綺砂 三重 4:16.403
 2 宮田 菜摘 岐阜 4:20.987
 3 浅田 聖奈 愛知 4:35.436

女子2km個人ハーフシュート

- 1 鈴木 奈央 静岡 2:44.747
 2 高橋 智香 愛知 2:53.544
 3 當銘 直美 静岡 2:56.111

男子個人ロードレース(クリテリウム)

- 1 高土 拓也 三重 59:37
 2 秋田 拓磨 福井 59:37
 3 長尾 康平 愛知 59:37
 4 橋本 英也 岐阜 59:38
 5 嶋崎 藍道 静岡 59:39
 6 伊藤 真希 福井 59:39

女子個人ロードレース(クリテリウム)

- 1 鈴木 奈央 静岡 36:20
 2 浅田 愛理 愛知 36:47
 3 宮田 菜摘 岐阜 36:47

- 4 高橋 智香 愛知 37:15
 5 浅田 聖奈 愛知 37:15
 6 當銘 直美 静岡 37:15

県別対抗成績

- 1 岐阜 124p 2 福井 89p 3 静岡 86p

第45回近畿地域自転車競技選手権大会
(2013/10/12-13 京都・向日町競輪場)

男子スプリント

- 1 太田 大揮 大阪 立命館大学
 2 村田 瑞季 京都 北桑田高校
 3 畝木 聖 岡山 興陽高校

男子1kmタイムトライアル

- 1 戸祭 裕介 京都 京都産業大1:11.256
 2 富田 雄介 京都 北桑田高校1:11.302
 3 徳田 匠 京都 北桑田高校1:11.578

男子ケリツ

- 1 太田 大揮 大阪 立命館大学
 2 鍵本 大地 京都 京都産業大学
 3 畝木 聖 岡山 興陽高校

男子速度競走

- 1 徳田 匠 京都 北桑田高校
 2 安田 京介 京都 北桑田高校
 3 谷口 武史 京都 京都産業大学

男子4km個人ハーフシュート

- 1 吉岡 直哉 京都 京都産業大5:02.380
 2 谷口 武史 京都 京都産業大5:03.310

男子リミネーション

- 1 須堯 元春 京都 京都産業大学
 2 石原 竜 岡山 岡山足立レーシング
 3 黒田 拓海 兵庫 兵庫工業高校

男子ホイントレース(16km)

- 1 安田 京介 京都 北桑田高校 24P
 2 須堯 元春 京都 京都産業大学 18P
 3 松本 貞行 京都 カタニ G アンカマン 16P
 3 須堯 元春 京都 京都産業大5:13.920

男子チームスプリント

- 1 大阪経済大 吉田・松尾・下島 1:28.090
 2 メイトさん学科 沼田・李・月岡 1:28.870
 3 チーム・チアゴ 吉田・尾上・林 1:29.170

男子4kmチームハーフシュート

- 1 北桑田 徳田・安田・村田・宮田 4:48.830
 2 北桑田 武田・早川・溝口・竹村 4:55.500
 3 向陽高 上羽・荒木・田淵・金田 5:17.840

都道府県4kmチームハーフシュート

- 1 大阪 植益・小川・二宮・松兼 5:26.850

女子500mタイムトライアル

- 1 木村 友香 京都 同志社大学 46.49
 2 相馬 奈歩 愛知 チーム・ト・ハツ 46.75

女子3km個人ハーフシュート

- 1 木村 友香 京都 同志社大学4:55.190

第48回全国地域別自転車道路競争大会
近畿地域大会(2013/5/26 京都・美山町)

男子リト+マタ(70km)

- 1 大中 巧基 東京 1:46:25.04
 2 中島 康晴 愛三工業1:46:25.07
 3 白石 真悟 山口 シブツリキ1:46:39.78

- 4 木守 望 愛三工業 1:46:40.07
 5 道川 慧太 京都 京都大学 1:46:54.40
 6 山本 浩史 大阪 ハ゜タル 1:46:55.79

男子 U23 (70km)

- 1 前園 浩平 愛媛 立命館大 1:46:25.41
 2 榊原 健一 静岡 中京大学 1:46:26.30
 3 吉岡 直哉 京都 京都産大 1:46:52.46
 4 秋田 拓磨 長野 朝日大学 1:46:52.55
 5 元山 高嶺 京都 美山 CC 1:46:56.03
 6 志野 安樹 奈良 同志社大 1:46:57.65

男子ジュニア (40km)

- 1 岡本 隼 和歌山 和歌山北 58:01.86
 2 安田 京介 京都 北桑田高 58:02.10
 3 安田 開 京都 北桑田高 58:02.33
 4 草場 啓吾 京都 北桑田高 58:02.43
 5 松本 祐典 京都 北桑田高 58:02.53
 6 徳田 匠 京都 北桑田高 58:02.56

女子 (40km)

- 1 川崎 麻美 福井 ハ゜ル 1:11:34.00
 2 松本 景子 大阪 ZIPPY CLUB
 3 山本 晴加 長野 中京大学
 4 小寺 潤 兵庫 Flamingo

平成 25 年度中国地域自転車競技選手権大会
(2013/9/7-8 島根・大田自転車競技場)

男子スプリント

- 1 畝木 聖 岡山
 2 西村 均 島根
 3 山根 将太 鳥取

男子 1km タイムトライアル

- 1 岡田 真 島根 1:08.20
 2 安東 秀倫 岡山 1:12.58
 3 畝木 聖 岡山 1:12.78

男子ケリッ

- 1 原 隆成 島根
 2 岡野 凌也 岡山
 3 石原 竜 岡山

男子スクラッチ (10km)

- 1 安藤 周弥 鳥取 13:52.17
 2 山口 忠行 広島
 3 藤田 俊輔 岡山

男子ポイントレース (16km)

- 1 岡田 真 島根 28p
 2 山口 忠行 広島 24p
 3 大谷 勇輝 島根 15p

男子チームスプリント

- 1 岡山A 渡邊・本郷・岡野 1:11.92
 2 広島 佐々木・増田・河野・山下 1:14.00
 3 岡山C 藤田・石崎・大橋 1:14.66

男子チーム個人バレー

- 1 島根 西村・原・岡田・大谷 4:51.51
 2 岡山B 本郷・岡野・石崎・大橋 5:07.56
 3 岡山C 渡邊・藤田・奥村竜・奥村祐 5:20.28

女子 500m タイムトライアル

- 1 伊藤 花歩 鳥取 39.60
 2 田村 舞 鳥取 41.60
 3 山手 春香 岡山 45.87

女子スプリント

- 1 伊藤 花歩 鳥取
 2 田村 舞 鳥取
 3 山手 春香 岡山

女子 2km 個人バレー

- 1 田村 舞 鳥取 2:53.19
 2 伊藤 花歩 鳥取 2:56.09
 3 山手 春香 岡山 3:21.11

女子ケリッ

- 1 伊藤 花歩 鳥取
 2 田村 舞 鳥取
 3 山手 春香 岡山

第 48 回中国地域別自転車競技選手権大会
(2013/6/16 広島・中央森林公園)

成年男子 (98.4km)

- 1 西川 昌宏 山口 A 2:37:08.50
 2 中村 弦太 広島 A 2:37:11.17
 3 小森 亮平 広島 B 2:37:30.20
 4 白石 真悟 山口 A 2:37:30.57
 5 酒居 良和 広島 B 2:37:31.56
 6 川口 貴大 広島 D 2:37:35.10

ジュニア男子 (98.4km)

- 1 秋山光太郎 倉吉総産 2:55:53.54
 2 増田 和也 広島城北 2:55:58.49
 3 吉田 慶 広島山陽 2:56:17.29
 4 久保田泰弘 誠英 2:56:17.82
 5 野上 裕貴 水島工 2:56:19.07
 6 足立 竜一 岡山工 2:56:19.43

ジュニア女子 (36.9km)

- 1 三宅 玲奈 岡山工 1:10:01.37
 2 田村 舞 倉吉総産 1:22:08.32
 3 後藤 桃子 倉吉総産 1:23:41.71
 4 湧嶋 琴音 倉吉総産 1:25:58.01
 5 岩崎 智絵 倉吉西高 1:30:03.41
 6 衣笠 慶子 倉吉東 1:33:00.96

第 45 回四国地域自転車競技選手権大会
(2013/11/17 愛媛・松山競輪場)

男子スプリント

- 1 太田 竜馬 徳島 小松島西高等学校
 2 堀 航輝 香川 石田高校
 3 高山 雄丞 愛媛

男子 1km タイムトライアル

- 1 眞砂 英作 香川 高松工芸高 1:08.29
 2 堀 航輝 香川 石田高校 1:10.33
 3 原 良太 徳島 徳島レーシング 1:11.78

男子ケリッ

- 1 森 成良 香川 石田高校
 2 川口 雄太 徳島 徳島商業高校
 3 山地 大介 香川 アンパロ

男子 4km 速度競走

- 1 眞砂 英作 香川 高松工芸高 4:59.07
 2 山地 大介 香川 アンパロ
 3 山下 祥平 愛媛 松山工業高校

男子スクラッチ (8km)

- 1 高山 雄丞 愛媛
 2 内原 隼人 香川 環太平洋大学

- 3 谷岡 尚輝 高知 高知東工業高校

男子ポイントレース (24km)

- 1 宮内 渉 愛媛 環太平洋大学
 2 武智 気吹 愛媛 松山中央高校
 3 田中 稜一 香川 高松工芸高校

男子チームスプリント

- 1 香川 長尾・堀・森 1:22.77
 2 愛媛 宮内・高山・佐々木 1:24.64
 3 高知 今村・谷岡・徳弘 1:30.10

男子 4km チームバレー

- 1 香川 山地・内原・眞砂・田中 4:40.68
 2 愛媛 武智・山下・野本・岡崎 4:48.81

女子 500m タイムトライアル

- 1 日野 友葵 愛媛 丹原高校 40:81
 2 横山 千那 香川 笠田高校 43:19
 3 三宅 真央 香川 笠田高校 43:59

ジュニア女子 2km 個人バレー

- 1 日野 友葵 愛媛 丹原高校 2:50.82
 2 三宅 真央 香川 笠田高校 3:00.43
 3 田中 真彩 愛媛 松山聖陵高 3:04.28

第 38 回四国地域自転車道路競走大会
(2013/11/4 香川・三豊市宝山湖)

リト

- 1 長野 耕治 愛媛 JP Sports 1:03:32
 2 和泉 良隆 高知 土佐ガス 1:03:49
 3 村上 卓穂 香川 Tyrell 1:06:31
 4 藤井 健司 徳島 徳島レーシング 1:06:43
 5 矢野 泰弘 香川 三観消防 1:07:12
 6 今村 公俊 高知 1-07-クス 1:07:48

U23

- 1 宮内 渉 愛媛 環太平洋大 1:03:24
 2 内原 隼人 香川 環太平洋大 1:03:33
 3 藤岡 克磨 徳島 パーリスミ 1:04:25
 4 河合 智一 愛媛 ホンジャス 1:07:52

ジュニア

- 1 武智 気吹 愛媛 松山中央高 1:03:30
 2 眞砂 英作 香川 高松工芸高 1:03:33
 3 日野 竜嘉 愛媛 松山聖陵高 1:03:34
 4 野本 空 愛媛 松山工業高 1:03:35
 5 河野 玄樹 香川 高松工芸高 1:03:45
 6 徳弘 高志 高知 高知東工高 1:03:48

平成 25 年度九州地域自転車競技大会
(T: 2013/10/12-13 大分・別府競輪場
R: 2013/10/14 平成森林公園)

男子スプリント

- 1 小島 義郎 大分 日出陽谷高校
 2 一木 辰也 大分 Castello
 3 佐藤 文俊 大分 日出総合高校

男子 1km タイムトライアル

- 1 佐藤 文俊 大分 日出総合高 1:11.17
 2 松岡 辰泰 熊本 千原台高校 1:11.56
 3 橋本 直 鹿児島 鹿屋体育大 1:11.88

男子ケリッ

- 1 釘尾 真幸 鹿児島 南大隅高校
 2 小島 義郎 大分 日出陽谷高校
 3 東 佑紀 福岡 祐誠高校

男子 4km 速度競走

- 1 越海 誠一 大分 杵築速見消防組合
- 2 釘尾 真幸 鹿児島 南大隅高校
- 3 吉川 朝也 宮崎 都城工業高校

男子スクラッチ (8km)

- 1 伊藝 大智 沖縄 北中城高校 10:44.74
- 2 高橋 綜一郎 大分 日出暘谷高校
- 3 川尻 琢磨 長崎 陸上自衛隊第4師団

男子ポイントレース (24km)

- 1 伊藝 大智 沖縄 北中城高校 48p
- 2 大段 裕 大分 別府商業高校 38p
- 3 村田 雄耶 福岡 祐誠高校 23p

男子チームスプリント

- 1 大分 小島・川崎・廣瀬 1:25.68
- 2 福岡 梶原・上野・今村 1:25.95

- 3 宮崎 松本・吉川・中村 1:27.68

男子 4km チーム・シフト

- 1 大分 高橋優・高橋橋・佐藤・三重野 4:51.13
- 2 福岡 村田・東・吉岡・佐竹 4:56.47
- 3 熊本 松岡・内田・前中・嘉永 5:06.19

男子ロードレース

- 1 高橋 優斗 大分 日出暘谷高 1:29.35
- 2 加藤 達也 福岡 イマイケル 1:29.35
- 3 西山 信広 福岡 北九州市 1:29.36
- 4 大段 裕 大分 別府商業高 1:29.36
- 5 村田 雄耶 福岡 祐誠高校 1:29.37
- 6 田 典幸 熊本 Espoir Asia 1:29.37

女子スプリント

- 1 内村 舞織 鹿児島 南大隅高校
- 2 江藤里佳子 大分 鹿屋体育大学

- 3 内村風羽香 鹿児島 南大隅高校

女子 500m タイムトライアル

- 1 江藤里佳子 大分 鹿屋体育大学 40:54
- 2 内村 舞織 鹿児島 南大隅高校 40:61
- 3 中井 彩子 宮崎 日向高校 40:91

女子 2km 個人・シフト

- 1 江藤里佳子 大分 鹿屋体育大 2:50.58
- 2 中井 彩子 宮崎 日向高校 2:51.92
- 3 吉田 夢姫 大分 日出総合高 3:01.98

女子ロードレース

- 1 江藤里佳子 大分 鹿屋体大 42:34.174
- 2 中井 彩子 宮崎 日向高校 43:05.276
- 3 内村 舞織 鹿児島 南大隅高 45:25.203

総合成績

- 1 大分 126p 2 福岡 83p 3 熊本 37p

2014年アジア自転車選手権大会 日本代表選手団

大会名 第34回アジア自転車競技選手権大会/第21回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

開催場所 <トラック>カザフスタン・アスタナ <ロード> カザフスタン・カラガンダ

開催日程 2014年5月22日~6月1日 派遣日程 2014年5月17日~6月3日

<トラック> 5月22日~26日:派遣17日~28日

<ロード> 5月29日~6月1日:派遣25日~6月3日

代表選手団 54名

ヘッドコーチ 坂本 勉 (強化コーチ) ※トラック

コーチ 飯島 誠 (強化コーチ)・村田 正洋 (強化コーチ)・山本 宏恒 (ジュニア強化スタッフ) ※以上3名トラック

浅田 顕 (強化コーチ)・柿木 孝之 (強化コーチ) ※以上2名ロード

メカニック 森 昭雄 (強化支援スタッフ) ※トラック 鬼原 積 (強化支援スタッフ) ※トラック・ロード

高橋 優平 (強化支援スタッフ) ※ロード

マッサー 柳 浩史 (強化支援スタッフ) ※トラック 中山 真臣 (強化支援スタッフ) ※トラック・ロード

井上 良輝 (強化支援スタッフ) ※ロード

ドクター 金井 貴夫 (医科学部会員) ※トラック 総務 貝塚 直子 (事務局) ※トラック・ロード

選手 (男子25名・女子15名 計40名)

<エリート・トラック> 16名

中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)・渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)・新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島)

脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井)・窪木 一茂 (和歌山・和歌山県庁/チーム右京)

倉林 巧和 (群馬・日本体育大学大学院)・近谷 涼 (富山・日本大学)・原田 裕成 (岡山・鹿屋体育大学)

橋本 英也 (岐阜・鹿屋体育大学)・加瀬加奈子 (JPCA・JPCU 新潟)・石井 貴子 (JPCA・JPCU 千葉)

前田佳代乃 (京都)・塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学大学院)・上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院)

小島 啓子 (千葉・日本体育大学大学院)・中村 妃智 (千葉・日本体育大学)

<エリート・ロード> 7名 (兼トラック選手*2名を含まず)

宮澤 崇史 (JPCA・VINI FANTINI NIPPO DE ROSA)

西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシング)・盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)

土井 雪広 (山形・チーム右京)・窪木 一茂* (和歌山・和歌山県庁/チーム右京)

金子 広美 (三重・イナーメ・アイランド信濃山形)

萩原麻由子 (群馬・Wiggle Honda pro team)

與那嶺恵理 (茨城・TEAM FORZA)・上野みなみ* (青森・鹿屋体育大学大学院)

<U23・ロード> 4名

黒枝 土揮 (大分・VINI FANTINI NIPPO DE ROSA)

石橋 学 (青森・鹿屋体育大学/VINI FANTINI NIPPO DE ROSA)

内野 直也 (埼玉・EQA U23)・岡 篤志 (茨城・EQA U23)

<ジュニア・トラック> 5名

野上 竜太 (岡山・鹿屋体育大学)・布居 翼 (和歌山・和歌山北高校)

松本 憲斗 (熊本・ルーテル学院高校)・中村 滝一 (福島・平工業高校)・鈴木 奈央 (静岡・星陵高校)

<ジュニア・ロード> 8名

松本 祐典 (京都・明治大学)・孫崎 大樹 (京都・北桑田高校)・草場 啓吾 (京都・北桑田高校)

石上 優大 (神奈川・横浜高校)・坂口 聖香 (兵庫・日本体育大学/パナソニックレディーズ)

中井 彩子 (宮崎・日向高校)・伊藤 真生 (宮城・東北高校)・梶原 悠未 (埼玉・筑波大学坂戸高校)



**Women's ツアー・オブ・タイランド 2014
日本代表選手団**

大会名 Women's ツアー・オブ・タイランド 2014 (UCI 2.2)
開催場所 タイ・チェンライ
大会期間 2014年4月8日～10日
派遣期間 2014年4月5日～14日
代表選手団
監督 高橋 松吉(強化コーチ)
マッサー 石田 宗男(強化支援スタッフ)
メカニック 現地スタッフ
選手 西 加南子(千葉・LUMINARIA)
豊岡 英子(大阪・パナソニックレディース)
金子 広美(三重・イナメ・アイランド信濃山形)
針谷千紗子(栃木・Live GARDEN BICI STELLE)
合田祐美子(岡山・早稲田大学)

**2014年度 UCI BMX スーパークロス・ワールドカップ
日本代表選手団**

大会名 UCI BMX スーパークロス・ワールドカップ
大会期間 2014年4月18日～19日
開催場所 イギリス・マンチェスター
代表選手団
選手 松下 翼
長迫 吉拓
吉村樹希敢
吉井 康平
瀬古 遥加

2014 ツール・ド・イストリア 日本代表選手団

大会名 2014 ツール・ド・イストリア
(UCI ジュニアネイションズカップ)
大会期間 2014年4月24日～27日
派遣期間 2014年4月22日～29日
開催地 クロアチア
代表選手団
監督 柿木 孝之(ジュニア強化育成部会)
コーチ 田中 良泰(ジュニア強化育成部会)
メカニック 山脇 靖宏(ジュニア強化育成部会)
選手 草場 啓吾(京都・北桑田高校)
孫崎 大樹(京都・北桑田高校)
石上 優大(神奈川・横浜高校)
小山 貴大(群馬・前橋育英高校)
富尾 大地(鹿児島・南大隅高校)
水谷 翔(鹿児島・南大隅高校)

**2014年 UCI パラサイクリングトラック世界選手権大会
日本代表選手団**

大会名 2014年 UCI パラサイクリング
トラック世界選手権大会
大会期間 2014年4月10日～13日
派遣期間 2014年4月5日～16日
開催場所 メキシコ・アグアスカリエンテス
代表選手団
監督 伊藤 保文(京都・日本競輪選手会)
コーチ 権丈 泰巳(JPCF強化スタッフ)
メカニック 鬼原 積(JCF強化スタッフ)
競装員 齋藤 拓(JPCF強化スタッフ)
選手 藤田 征樹(茨城・日立建機) C3
石井 雅史(神奈川・藤沢市未来創造財団) C4
鹿沼由理恵(東京・メットライフアリコ生命保険) FB
田中 まい(千葉・日本競輪選手会) パイロット

**BMX スーパークロス・ワールドカップ第2戦
日本代表選手団**

大会名 UCI BMX スーパークロス
ワールドカップ第2戦
開催場所 オランダ・パペンダル
大会期間 2014年5月8日～11日
代表選手団
選手 松下 翼
長迫 吉拓
吉井 康平

**2014年度 UCI マウンテンバイク・ワールドカップ
日本代表選手団**

大会名 UCI マウンテンバイク・ワールドカップ
大会期間 2014年4月10日～13日
開催場所 南アフリカ・ピーターマリッツバーグ
代表選手 清水 一輝

**2014年 UCI パラサイクリング ワールドカップロード
日本代表選手団**

大会名 2014年 UCI パラサイクリング
ワールドカップロード
開催場所 イタリア・CASTIGLIONE Della PESCAIA
大会期間 2014年5月9日～11日
派遣期間 2014年5月6日～13日
代表選手団
コーチ 権丈 泰巳(JPCF強化スタッフ)
メカニック 鬼原 積(JCF・JPCF強化スタッフ)
マッサー 菊地 孝明(JCF・JPCF強化スタッフ)
選手 藤田 征樹(茨城・日立建機) C3
鹿沼由理恵(東京・メットライフアリコ生命保険) FB
田中 まい(千葉・日本競輪選手会) パイロット

2014年 ツアー・オブ・ジャパン 日本代表選手団

大会名 2014年 ツアー・オブ・ジャパン
大会期間 2014年5月18日～25日
派遣期間 2014年5月17日～25日
開催場所 堺・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京
代表選手団
監督 浅田 頭(強化コーチ)
メカニック 高橋 優平(強化支援スタッフ)
マッサー 井上 良輝(強化支援スタッフ)
選手 面手 利輝(神奈川・EQA U23)
清水 太己(東京・EQA U23)
内野 直也(埼玉・EQA U23)
岡 篤志(茨城・EQA U23)
黒枝 咲哉(大分・鹿屋体育大学)
広瀬 樹(神奈川・中央大学)

2014年2月28日に発表された公益財団法人日本スポーツ仲裁機構の仲裁判断について

昨年7月20日に行なわれた第26回全日本マウンテンバイク選手権大会・クロスカントリー女子競技における降格処分を不服として、その取消等を求めてなされた申立てに対する「仲裁判断」により、申立人を第4位とする降格処分は取消されました。これを受け、当該レースのその余の着順は確定しているものとして変更はいたしません。申立人の公式記録については優勝といたします。したがって、当該レースの優勝者は2名となります。また、当連盟による競技規則の解釈について明確化し、当連盟広報誌「シクリスムエコー」および当連盟公式ウェブサイト上で告知します。

【2014年度よりの競技規則解釈】

マウンテンバイク・クロスカントリー競技において認められる技術支援は、①補給/技術支援ゾーンにおいて行なわれること、②競技者自身、チーム・メイト、チーム・メカニシャンにより行なわれること、を重要な判断基準とする。この技術支援の際に使用される部品の所有権の帰属は問わない。

－ JCF 維持会員のお願い －

さて、本連盟は平成7年5月にプロ、アマ統合により、わが国における自転車競技界を代表する団体として発足して以来、自転車競技の普及・振興に係る諸事業を展開してまいりました。今後も自転車競技の一層の発展を期し、国内大会の充実や国際大会の開催・派遣等活発な事業展開を図る所存です。しかしながら、これら事業活動には多額の経費を要するため、経費節約に努める一方、自主財源の増額を図る一環として従来から維持会員制度に基づき会員各位のご支援を仰いでおります。

2013年9月に2020年夏の五輪・パラリンピック開催地として東京が決定しました。自転車競技は第1回(1896年アテネ五輪)大会からの正式種目でもあります。

また、次の2016年リオでのメダル獲得のため選手、関係者一同がその目標を達成するため日々努力を重ねております。

つきましては、出費ご多端の折誠に恐縮とは存じますが、何卒かかる実情をご理解いただき、自転車競技のより一層の健全な強化普及・振興のためご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

維持会費(平成26年度分)

個人会員：年額10,000円を一口とし、一口以上。団体会員：年額50,000円を一口とし、一口以上。

詳しくはお手数ですが、JCFホームページもしくは、事務局総務部までお問い合わせください。TEL: 03-6277-2690

※今年度より寄付金制度も始まりました。

広報委員会から 広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内

「シクリスムエコー」個別郵送ご希望の方には、有料にて送付させて頂いております。平成26年度の発行回数は6回を予定しております。また、勝手ながら年度途中でのお申し込みにつきましても、4・5月号からの1年分とさせていただきます。

平成26年度1,200円(1年分)

お近くのゆうちょ銀行または郵便局より振替払込をお願いいたします。払込先：「シクリスムエコー 00140-4-152006」

各加盟団体(都道府県車連)事務局や一部自転車関連施設にもこれまで通り送付いたしますので、ご来訪できる方はご利用ください。

また、JCFホームページにて掲載いたしておりますのでご覧ください。< <http://www.jcf.or.jp> >

なお、JCF維持会員(個人1万円・法人5万円/年間)の皆様へは無料でお送りいたします。

連盟の動き(4月上旬～6月上旬)

4月1日	平成26年度第1回ロード競技部会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
1日	ロードU23欧州遠征選手団出発	於：フランス・オランダ・イタリア 帰国→4/28
4日	2014ユースオリンピック大会派遣選考合宿	於：静岡・日本CSC(～4/5)
5日	ツアー・オブ・タイランド2014選手団出発	於：タイ 帰国→4/14
6日	トラック短距離合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム(～4/8)
20日	平成26年度第1回選手強化委員会	於：福島・泉崎カントリーヴィレッジ 会議室
22日	2014ツール・ド・イストリア選手団出発	於：クロアチア 帰国→4/29
5月3日	トラック中距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム(～5/7)
3日	ジュニアトラック強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム(～5/7)
3日	ジュニアロード強化合宿	於：青森・八戸(～5/7)
7日	トラック短距離合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム(～5/10)
13日	平成26年度第1回広報委員会	於：東京・三田いきいきプラザ 講習室
16日	平成26年度第1回総務委員会	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室
17日	2014年アジア自転車選手権大会選手団出発	於：カザフスタン 帰国→6/3
18日	ロード女子強化合宿	於：静岡・日本CSC(～5/21)
22日	平成25年度第1回常務理事会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
26日	平成26年度第1回アンチ・ドーピング委員会	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室
6月2日	平成26年度第1回広報部会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
6月27日	全日本選手権自転車競技大会-ロード・タイムトライアル	RR	岩手/八幡平
6月27日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・ロード	PARA	岩手/八幡平
6月28日～29日	全日本選手権自転車競技大会-ロードレース	RR	岩手/八幡平
7月4日～6日	寛仁親王記念ワールドグランプリ国際自転車競技大会	TR	静岡/伊豆ペロドローム
7月5日～6日	全日本選手権自転車競技大会-BMX	BMX	茨城/国営ひたち海浜公園
7月5日～6日	第55回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	TR	静岡/伊豆ペロドローム
7月9日～13日	世界大学選手権大会	RR/MTB	ポーランド
7月11日	JAPAN TRACK CUP I (Class 1)	TR	静岡/伊豆ペロドローム
7月12日～13日	JAPAN TRACK CUP II (Class 1)	TR	静岡/伊豆ペロドローム
7月13日	全日本学生 RCS 第4戦大町美麻ロードレース	RR	長野/大町・美麻
7月19日～20日	全日本選手権自転車競技大会-マウンテンバイク	MTB	静岡/日本サイクルスポーツセンター
7月22日～27日	UCI世界選手権大会-BMX	BMX	オランダ
7月25日～27日	パラサイクリング・ロード・ワールドカップ第2戦	PARA	スペイン/セゴビア
7月26日～27日	お台場サイクルフェスティバル湾岸クリテリウム	RR	東京/江東・青海

無限の夢へ、走りだそう。

RING!RING!
プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで **RING!RING!** 検索

Meitan SuperAthlete

株式会社梅丹本舗
大阪府摂津市学園町 1-1-26
072-637-5677 (代表)
<http://www.meitanhonpo.jp/>

アスリートのための糖質補給

効率のよい
エネルギー変換に

脚つり防止に

梅丹本舗は日本自転車競技連盟のオフィシャルスポンサーです。自転車競技ナショナルチームを応援しています。

汗をかかすべての方に

おいしくエネルギー補給

Meitan CC SuperAthlete おいしいエネルギー補給食 リキッドタイプ

- ピーチ 果汁50%
- リンゴ 果汁50%
- ウメ 果汁20%
- ライムミント 果汁10%
- レモンジンジャー 果汁25%

第3回全日本トライアル選手権 in 佐久信州

寺井がエリート20三連勝 & 20・26二冠!



Elite 26 2位の飯塚



男子ジュニア優勝の坪井



ウイメン優勝の小川

ゴールデンウィーク真っ只中の5月3日・4日、長野県佐久市で第3回全日本トライアル選手権 in 佐久信州が開催された。

昨年、一昨年と愛知県の新城で行われた全日本選手権、今回は新たな長野新幹線「佐久平」駅前にある佐久ミレニアムパークが会場となった。

大会初日は午前中に男子エリートの



20インチと26インチの予選が行われ、各クラス上位6名が決勝進出となった。会場においてはJADA(日本アンチドーピング機構)によるアウトリーチプログラムブースが開設され、午後には選手全員参加によりアンチドーピング講習会も行われた。

2日目の午前中は、男子ジュニア、女子(ウイメン)のほか、1998年生まれ以降のカテゴリーの決勝が行われた。今回は、各選手をステージ上で紹介したあとに競技に入っていく演出

がなされ、盛り上がりを見せていた。

午後には昨日行われたエリート20とエリート26の決勝が行われたが、今回はこの両クラスへのエントリーが認められ、3名がダブルエントリーとなった。

エリート20決勝では寺井、飯塚、柴田の戦いが繰り広げられ、見事寺井が3連覇を果たした。またエリート26決勝では、予選トップ通過の飯塚と寺井のバトルとなり、ここでも寺井が優勝し、2冠を獲得した。

【競技結果】

第3回全日本選手権トライアル
(2014/5/3-4 長野・佐久・ミレニアムパーク)

Elite 20

- 1 寺井 一希 埼玉 チームリケーン 22p
- 2 飯塚 隆太 東京 GOLDRUSH 25p
- 3 柴田 泰嵩 愛知 GOLDRUSH 27p



- 4 甘利 大斗 長野 トライアルチーム輪道 57p
- 5 竹内 康剛 愛知 無所属 60p
- 6 西崎 勝也 広島 無所属 60p

Elite 26

- 1 寺井 一希 埼玉 チームリケーン 23p
- 2 飯塚 隆太 東京 GOLDRUSH 26p
- 3 柴田 泰嵩 愛知 GOLDRUSH 38p



- 4 西窪 友海 和歌山 GOLDRUSH 51p
- 5 藤原 涼平 島根 関西大学 55p
- 6 小松 龍一 神奈川 HWC 60p

男子ジュニア(1996-1997生まれ)

- 1 坪井 大地 宮城 GOLDRUSH 50p



ウイメン(1999年以前生まれ)

- 1 小川 菜花 長崎 ZIP_RACING 13p
- 2 水野 真美 大阪 関西大学 21p
- 3 山本 琴恵 東京 GT 33p



ガール(1998-1999生まれ)

- 1 土屋 凌我 長野 無所属 38p

ミニメ(2000-2001生まれ)

- 1 安部 健太 埼玉 無所属 28p

ペンツァミン(2002-2003生まれ)

- 1 氏川 政哉 三重 無所属 10p

フツツ(2004-2005生まれ)

- 1 広畑 伸哉 和歌山 無所属 26p

ガール(1999-2004年生まれ)

- 1 安藤 七星 東京 わくわくBTR 47p

全日本トライアル Elite 20 優勝の寺井



全日本トライアル Elite 26 優勝の寺井



< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.206 2014年4・5月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/安田 光義

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

